



[北面]



[南面]

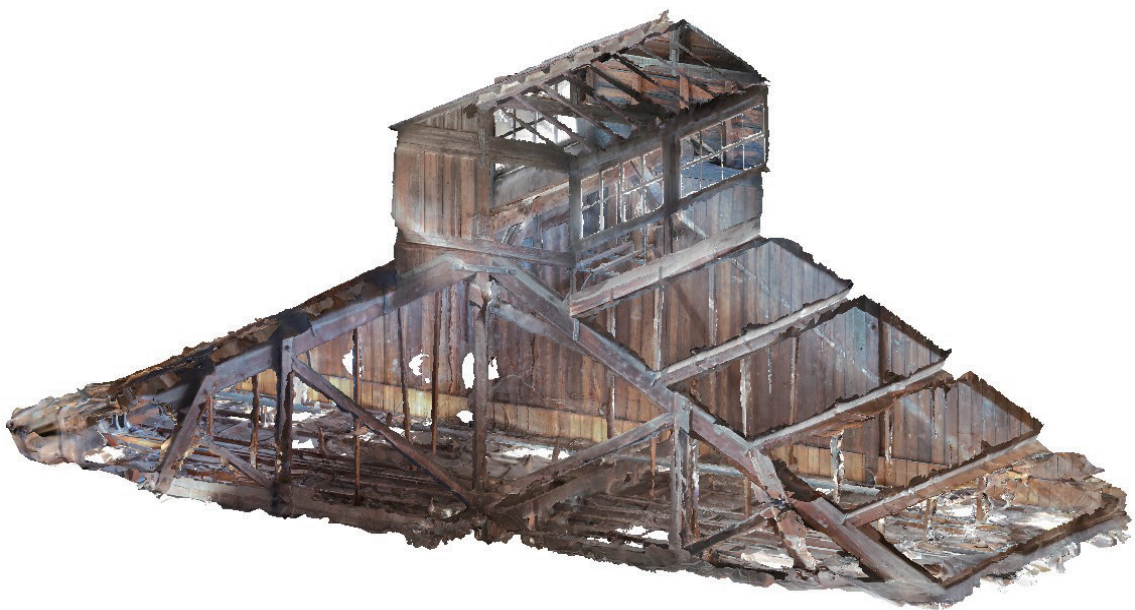


[西面]



[東面]

工学部11号館外観オルソ図



工学部11号館小屋組みの三次元モデル

序

文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門は、岡山大学構内各キャンパスにある遺跡の調査・研究・公開と保護の業務を担当しています。

2023年度は、農学部Ⅱ号館エレベーター建設にともなう津島岡大遺跡第41次調査、共創イノベーションラボ新営にともなう津島岡大遺跡第42次調査、ライフライン再生工事にともなう津島岡大遺跡第43次調査のほか立会調査が112件超実施されました。

また、構内にのこる旧日本陸軍関連施設の調査も行っております。津島キャンパスは旧日本陸軍第十七師団の駐屯地であり、師団廃止後も岡山部隊が引き続き使用していました。文化庁による埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会が2024年に報告した『近世・近代の埋蔵文化財保護について（報告）』では、近世・近代の遺構について「その所在と価値の把握に努める必要がある」としています。旧陸軍の遺構について今後も慎重に取り扱っていかねばなりません。

文化遺産マネジメント部門は、引き続き構内遺跡の調査にあたりとともに調査記録・出土資料を適切に保管し、積極的にその研究と公開に努めて参ります。

発掘調査を始めとする業務を遂行することができたのは、関係諸機関・学内外の多くの人から協力をいただいた結果であると認識しております。ここに感謝申し上げ、引き続きご協力を賜りますようお願いするものです。

2025年2月

岡山大学文明動態学研究所

所長 松 本 直 子

文化遺産マネジメント部門 部門長 清 家 章

岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門紀要2023

目 次

第1章 構内遺跡の調査研究

第1節 発掘調査報告

1. 津島岡大遺跡第41・43次調査の調査体制……………(柴田亮) 1
2. 津島岡大遺跡第41次調査……………(柴田) 1
3. 津島岡大遺跡第43次調査……………(柴田) 7
4. 津島岡大遺跡第43次調査出土木質の放射性炭素年代測定……………(パレオ・ラボAMS年代測定グループ) 12

第2節 発掘調査の概要

1. 津島岡大遺跡第42次調査……………(木村理) 15
2. 津島岡大遺跡(旧日本陸軍橋梁演習施設)発掘調査……………(野崎貴博) 21

第3節 戦跡関連建物・施設三次元計測

1. 工学部11号館の測量調査……………(山口雄治) 31

第4節 立会調査の概要

1. 実施状況……………(柴田) 35
2. 津島地区
 - a. ライフライン再生Ⅱ(津島北排水)……………(柴田) 35
 - b. ライフライン再生Ⅱ(津島南給水)……………(柴田) 35
 - c. 共創イノベーションラボ棟新営に伴う埋文調査その他工事……………(柴田) 36
 - d. 環境理工棟照明設備・構内外灯更新工事……………(柴田) 36
 - e. 総合研究棟(文・法・経済学部2号館)改修工事……………(柴田) 38

第5節 構内遺跡に関する研究

1. 鹿田遺跡第22次調査地点出土近世・近代遺物の検討……………(岩崎志保) 45

第2章 調査資料の整理および公開・活用

第1節 調査資料の整理・保存処理

1. 調査資料の整理……………(柴田) 51
2. 調査資料の保存処理……………(柴田) 51
 - a. 木製品のPEG処理……………(柴田) 51
 - b. 出土遺物の委託保存処理……………(柴田) 51

第2節 調査成果の公開・活用

1. 公開・展示
 - a. 第22回岡山大学キャンパス発掘成果展「中世の弔い—鹿田遺跡の事例から—」……………(柴田) 51
 - b. 第22回岡山大学キャンパス発掘成果展記念講演会……………(柴田) 53
 - c. 文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門第4～6回公開講座……………(山口) 53
2. 資料・施設等の利活用

a. 調査・研究への支援	54	(柴田)
b. 教育支援	55	(柴田)
c. 社会貢献	55	(柴田)

第3章 2023年度における調査・研究のまとめ	56	(柴田)
-------------------------	----	------

資料

1. 岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門規定・組織等	57
2. 2022年度以前の調査・研究一覧	60

挿 図 目 次

図1 調査地点の位置	1	図26 西橋脚北調査区	28
図2 調査地点の全体遺構配置図	2	図27 出土遺物	29
図3 調査区北壁断面図	3	図28 本調査地点の位置	31
図4 ピット1	4	図29 FAROによる測量風景	31
図5 溝1	4	図30 FAROによるカラー点群	31
図6 包含層出土遺物	4	図31 工学部11号館外観オルソ図(縮尺1/200)	
図7 本調査地点周辺の断面柱状図比較	5	と内面の三次元モデル	32
図8 調査地点の位置	7	図32 小屋組みの三次元モデル	33
図9 調査区北壁断面図	8	図33 土層柱状図	35
図10 溝1	10	図34 土層柱状図	36
図11 本調査地点周辺の断面柱状図比較	11	図35 土層柱状図	36
図12 暦年較正結果	13	図36 土層柱状図	37
図13 調査地点の位置	15	図37 土層柱状図	38
図14 土層柱状図	16	図38 2023年度の調査地点【1】	
図15 縄文時代後期の遺構全体図	18	–津島地区–	41~42
図16 弥生時代前期の遺構全体図	19	図39 2023年度の調査地点【2】	
図17 弥生時代後期～古墳時代後期の遺構		–鹿田地区–	43
全体図	19	図40 2023年度の調査地点【3】	
図18 調査地点の位置	22	–三朝地区–	44
図19 橋台上に生えた樹木	22	図41 煙管	46
図20 橋梁演習施設各部名称	23	図42 容器	47
図21 調査区名称	23	図43 鹿田遺跡第22次調査地点大型種子	48
図22 橋台西半前面調査区	24	図44 鹿田遺跡第22次調査地点出土桃・落花生	
図23 橋台西半背面調査区	25		49
図24 橋台間調査区	26	図45 展示会場風景	52
図25 西橋脚南調査区	27	図46 記念講演会風景	53

表 目 次

表1	測定資料および処理……………	12	表7	時期別出土点数……………	45
表2	放射性炭素年代測定および暦年較正結果…	13	表8	鹿田遺跡第22次調査地点大型種子一覧…	48
表3	2023年度調査一覧（津島地区）……………	39～40	表9	鹿田遺跡第22次調査地点出土桃・落花生 一覧……………	50
表4	2023年度調査一覧（鹿田地区）……………	40	表10	2023年度分析一覧……………	51
表5	2023年度調査一覧（三朝地区）……………	40			
表6	第22次調査地点出土陶磁器点数……………	45			

付 図 ・ 付 表

付図1	岡山大学の位置と周辺の遺跡分布……………	75	付図6	2022年度以前の調査地点【4】 －東山地区－……………	80
付図2	津島地区全体図……………	75	付図7	2022年度以前の調査地点【5】 －倉敷地区－……………	80
付図3	2022年度以前の調査地点【1】 －津島地区－……………	77～78	付表1	1982年度以前の構内主要調査……………	60
付図4	2022年度以前の調査地点【2】 －鹿田地区－……………	79	付表2	2022年度以前の構内主要調査……………	60
付図5	2022年度以前の調査地点【3】 －三朝地区－……………	80	付表3	埋蔵文化財調査室刊行物……………	72
			付表4	埋蔵文化財調査研究センター刊行物…	72
			付表5	文化遺産マネジメント部門刊行物……………	74

例 言

1. 本書は、岡山大学文明動態学研究所文化遺産マネジメント部門が、岡山大学構内において2023年4月1日から2024年3月31日までに実施した埋蔵文化財の調査研究成果および本部門の活動についてまとめたものである。
2. 本書において報告している津島岡大遺跡は岡山市北区津島中一丁目～三丁目1番1号、鹿田遺跡は岡山市北区鹿田町二丁目5番1号に所在する。
3. 執筆者は、氏名を目次に記載すると共に、原則として、本部門所属教員の場合は文末に、第1章第5節については文頭に記した。
4. 編集は清家章部門長・岩崎志保チームリーダーの指導のもと、柴田亮が担当した。

凡 例

1. 岡山大学構内の埋蔵文化財の調査にあたっては、2002（平成14）年4月1日から施行された「測量法及び水路業務法の一部を改正する法律」に基づき、世界測地系を採用したが、それ以前の日本測地系による構内座標の相対的な位置関係を保持したまま座標値のみ世界測地系に変換している。各区画の座標原点と区割りは次のように定めている。
 - 1) 津島地区では、国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）の座標北を基軸とし、 $(X, Y) = (-144,156.4617\text{m}, -37,246.7496\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺50mの方格で分割した区画を用いている。
 - 2) 鹿田地区では、国土座標第Ⅴ座標系（日本測地系）の座標北より東に15°振り出した座標軸を基軸とし、 $(X, Y) = (-149,456.3718\text{m}, -37,646.7700\text{m})$ （世界測地系）を起点とする構内座標を設定している。構内座標の内部は一辺5mの方格による地区割りをを用いている。
 - 3) 挿図中で用いる方位は、津島地区・鹿田地区は国土座標（日本測地系）の座標北を、その他は磁北を用いている。
2. 岡山大学敷地内で調査地点を示す場合、周知の遺跡にあたる場合はその遺跡名を、それ以外の場合は、地区名を付して示す。
3. 調査名称は、「発掘調査」に分類したものは、遺跡ごとに調査順に従って次数番号で呼称し、「試掘・確認調査」、「立会調査」に分類したものは、原則、原因となった工事名を使用している。発掘調査のうち、小規模で確認調査から連続して調査したものは、「試掘・確認調査」に分類する。
4. 付表に記載した既往の調査一覧は、掘削深度が中世層以下に達するかあるいは遺構などが確認された調査のみを掲載している。未掲載分も含め、すべてのデータは、本部門において保管している。
5. 本文などで使用している調査番号のうち、2023年度のは表3～5および2022年度以前のは付表1・2と一致する。
6. 本紀要に掲載の地形図（付図1）は、岡山市域図を複写したものである。
7. 土層注記において、特徴的な包含物・事項については括弧内に記載した。